

インフルエンザニュース

東京都立衛生研究所

平成12年インフルエンザ標語

**「インフルエンザ。かかる前に
予防。こじらす前に治療。」**

インフルエンザ流行のシーズンがいよいよ近づいてきました。今年の冬は比較的暖かく、雨の日が多いせい、インフルエンザ様疾患の報告例は、昨年と同時期に比較し少ないようです。

インフルエンザニュース第2号では、

1. 厚生省のインフルエンザ総合対策の情報
2. インフルエンザワクチン供給状況
3. 昨シーズンの患者発生の動き
(2次医療圏別地図情報)
4. インフルエンザの予防と、
インフルエンザにかかった時の注意
を掲載しました。

1. インフルエンザ総合対策の情報

今冬のインフルエンザ流行期に備え、厚生省は11月2日付で「インフルエンザ総合対策について」をまとめました。

平成12年度版では、インフルエンザ対策について「**インフルエンザ。かかる前に予防。こじらす前に治療。**」の標語を掲げ、具体的対策が5項目わたって示されています。また、昨年に引き続き相談窓口も設置されました。

今号ではインフルエンザ総合対策のなかから相談窓口、インフルエンザQ&Aおよび施設内感染防止対策についてご紹介します。

(1)インフルエンザ相談窓口

インフルエンザ予防接種の意義、有効性、副反応等やインフルエンザの一般的予防方法、流行状況等に関する疑問に答えるとともに、医療関係者からの専門的な質問にも応じられるよう相談窓口が開設されます。

インフルエンザに関する相談窓口は、

【インフルエンザ相談ホットライン】

開設時期：

平成12年11月6日～平成13年3月16日迄

対応日時：月曜日～金曜日(祝日除く)

9：00～17：00

電話番号：03-5285-1231

FAX番号：03-5285-1233

e-mail：influenza@nih.go.jp

(2)インフルエンザ”Q&A”

(平成12年度版)

厚生省と日本医師会感染症危機管理対策室、国立感染症研究所感染症情報センターは、毎年インフルエンザの流行シーズンに寄せられる質問項目の中で、頻度の高いものを整理しこれらについて回答を作成してあります。

内容は

12の質問形式で構成された『簡単に理解したい方のために』と、『より詳しく知りたい方のために』と題した①インフルエンザ総論、ウイルス、②臨床症状一般・診断治療、③予防接種、④インフルエンザの流行、の4項目29の質問で構成された26頁の資料です。

(3)施設内感染防止対策

インフルエンザウイルスの感染力は非常に強く、時として大規模な集団感染を起こすことがあります。特に高齢者のようなインフルエンザに罹患した場合の高危険度群の人が多く入所している施設での、インフルエンザウイルスの侵入の阻止と、侵入した場合のまん延防止を目的とした手引書が策定されました。

内容は・インフルエンザの基本

- ・施設内感染防止の基本的考え方
- ・施設内感染防止
- ・発生の予防一事前に行うべき対策
- ・まん延の防止一発生時の対応

について書かれた10頁の資料です。

これらの情報は、厚生省および国立感染症研究所感染症情報センターのホームページやインフルエンザホームページのそれぞれとリンクされ、ダウンロードできます。

下記にインフルエンザに関連するホームページ一覧を掲載しました。ご利用下さい。

厚生省ホームページ：
<http://www.mhw.go.jp>

国立感染症研究所
 感染症情報センターホームページ：
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

インフルエンザホームページ：
<http://influenza-mhw.sfc.wide.ad.jp/>

2. インフルエンザワクチン

供給状況

インフルエンザは、時として肺炎や脳炎などの合併症を引き起こし、重症化する場合があります。このような重症化を予防する方法として、インフルエンザワクチンの接種があります。

ワクチンは、インフルエンザウイルスを不活化して精製した液状の注射剤です。

製造・発売は、国内のワクチンメーカー5社が製造し、国家検定を経た上で毎年10月頃に出荷されています。

昨年は予防接種用のワクチンが一部で供給不足となったため、今年の最終的なインフルエンザワクチン供給量は、昨年の約2倍以上の約760万人分が供給されることになりました。(11月20日付 国家検定結果による)

昨年と今年のワクチン供給量の比較

ワクチン供給量	
昨年度	350万人分
今年度	760万人分

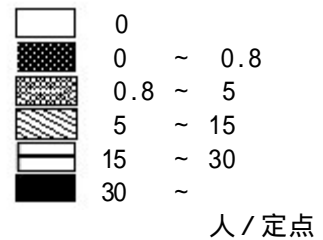
3. 昨シーズンの患者発生の動き

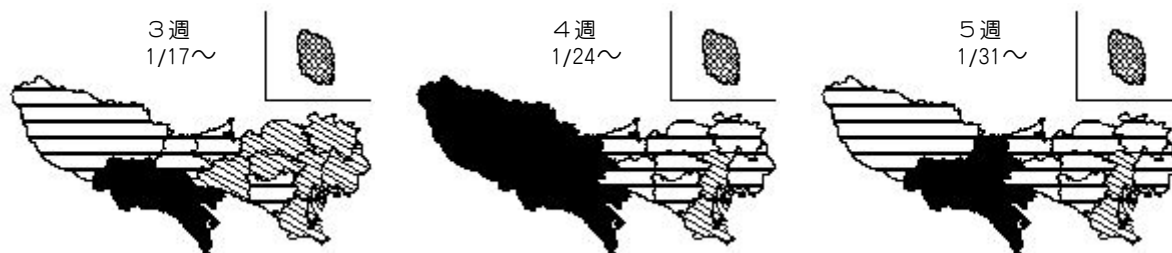
インフルエンザの流行は11月上旬から散発的に発生し、1月に入って爆発的に患者数が増加します。1月下旬から2月にピークを迎えた後、急速に減少し、4月上旬頃に終息します。

今期は11月に入り、これまでの患者報告数は22名で、昨年同時期の約半数の発生数です。そこで、昨シーズンのインフルエンザ患者発生の状況を、下の地図で示しました。



昨年は、11月8日から区東部、区西北部、区西部、北多摩北部、北多摩南部、南多摩地区の6医療圏で散発的に発生し、12月に入ると区西北部、区東北部、区中央部で患者数が増え、12月下旬には区南部を除く都全域でインフルエンザの発生がみられ定点当たり報告数も2.2人/定点となりました。

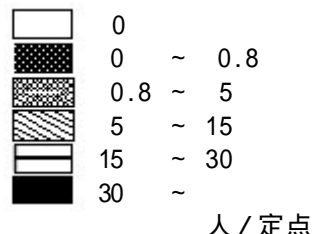




インフルエンザの流行がピークとなる1月下旬から2月にかけての患者発生の動きを見たのが上記の地図です。

1月に入ると都のインフルエンザの定点当たり報告数は、12月最終週の2.6倍（患者報告数は818人）となり、特に南多摩地区では、1月17日から3週間連続で定点当たり約40人の患者発生を記録しました。

一方区中央部と区南部の2次医療圏では患者発生が少なく、最盛期における発生数は多摩地区の約半数程度でした。



次号からは、今年の患者発生状況や学級閉鎖状況についても掲載してまいります。

4. インフルエンザの予防とインフルエンザにかかった時の注意

・インフルエンザの予防には

- ・流行時期には人混みをさげましょう。
- ・疲労や睡眠不足は禁物です。
- ・室内は、適度な温度と湿度の維持を心掛けましょう。
- ・バランスの良い食事を摂るように、気を配りましょう。
- ・外出時のマスク、帰宅時のうがいや手洗いは忘れずに。

・インフルエンザにかかったら

- ・単なるかぜと軽く考えず、早めに医療機関で受診し、治療を受けましょう。
- ・安静と休養が肝腎です。睡眠は十分に。
- ・部屋の湿度を保ちましょう。乾燥するとインフルエンザに罹りやすくなります。
- ・水分は十分に補給しましょう。ジュース、スープなど飲みたいものを飲みましょう。

インフルエンザニュース第3号では、インフルエンザ脳症に関する医薬品の緊急情報と、インフルエンザ抗体保有状況等について掲載します。
発行は、12月13日頃の予定です。

編集・発行 東京都立衛生研究所
〒169-0073
東京都新宿区百人町3-24-1
事務局 微生物部疫学情報室
Tel : 03-3363-3213
Fax : 03-5332-7365
e-Mail : idscc@tokyo-eiken.go.jp
URL: www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



再生紙を使用しています